

持続的共同学習を目指すアジア交流企画 LAP2

～Look East Project 2 --- for sustainable collaborative learning
SNSやビデオ会議の活用も含めて～

大阪私学教育情報化研究会

〒562-8453
大阪府箕面市如意谷1-13-23 聖母被昇天学院中学校高等学校 事務局

<http://www.osaka-sigaku.net/>

1. 研究の背景

本企画は、平成24年度実施企画 Look Asia Project (LAP1) の継続発展を目指して実施。LAP1では、日・麻の参加校に事前実施したアンケートをもとに、教員が海外の生徒に遠隔授業を行う企画で、日本の教員(2名)が、マレーシア語を交えながら、英語で授業。アンケート結果で特徴的だったのは、マレーシアの生徒がアジアへの関心が高いのに対し、日本側一校は、欧米に、また、アジア交流を実践している一校は、アジア、特に韓国への関心が高かった。

この企画は、アンケート集計や遠隔授業準備など、教員の負担が高い。このため、持続的交流が困難と考え、本企画(LAP2)では、アンケート集計も含め、活動の中心をウェブで実施し、交流の自動化を進め、指導教員は、ファシリテーターとしての役割に徹することにした。3回目のアンケートでは、生徒がアンケートを考えることにし、生徒主体の国際交流を意図した。

2. 研究の目的

本企画では、交流の自動化による持続的交流を行う中で、参加生徒の相互理解が深まることに加え、アンケート実施、結果分析、これに基づく議論、一連の作業能力が、現代に、求められる新しいリテラシーと考え、このリテラシー育成を目指した。期待される教育効果としては、以下の3点があげられるが、今後の交流を考え、「海外教員とのネットワーク構築」を目指し、LAP2から参加したタイの2校(内、中高一貫の一校は、小学生が参加)との技術指導、連携の強化を目的として、5回、カリキュラム開発担当(辻)が同国を訪問した。

1. 交流を通じた英語 Writing 力、
2. アンケート作成・集計・分析力、
3. ディスカッション能力の向上、

Ranking	Item	Valid votes	Ratio
1	religion / philosophical beliefs	24	77.4%
2	name	3	9.4%
2	personality	3	9.4%
4	intelligence	1	3.1%
5	looks	0	0.0%
5	family background	0	0.0%
5	country they country has or she belongs to	0	0.0%
5	others (Please write what in the comment field)	0	0.0%

Ranking	Item	Valid votes	Ratio
1	personality	3	93.8%
2	others (Please write what in the comment field)	1	31.3%
3	looks	1	31.3%
3	religion / philosophical beliefs	1	31.3%
5	family background	0	0.0%

実際のアンケート結果



マレーシアの先生による授業

3. 研究の方法

Kent 氏作のアンケートソフトを用いてアンケート作成（集計はグラフ表示）、Pukiwiki を使用して、ディスカッションを実施。持続的交流を可能にするため、教員の負担を減らし、交流の自動化を進めた。

4. 研究の内容・経過

アンケートは、3回実施し、「ほめる意図で相手を傷つけたこと、傷つけられたこと」(1回目)、「伝統食(たこやき・カノムクロック)の扱いの相違」(2回目)、「異性や友人に求める性格」(3回目)を実施。3回目は、生徒たちにアンケートテーマを考えさせ、これをもとに作成。

1回目のアンケートは、プライバシーに関わる点を考慮し、コメント欄は、生徒のコメントは表示されない形をとった。お互いの意見をそれぞれの学校の担当教員が事前にコメントを確認して、結果をある程度まとめて知らせた。2回目の食に関するアンケートでは、日本の生徒が、菓子類を好むに対し、マレーシア、タイの生徒は、フルーツを好む結果となった。この背景を考え、掲示板に書き込む準備までは取り組みお互いの考えを1回目と同様に教員を通じて共有した。

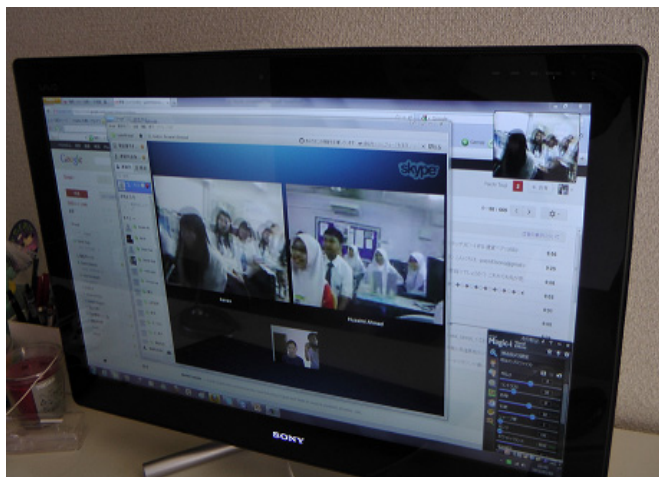
3回目のアンケートは、羽衣学園とマレーシアの Ahmad 校がアンケートを実施した。生徒たちの提案で作成したアンケートであったため、羽衣学園の生徒たちは、「嬉々として」書き込んでいた。また、Ahmad 校でも、今、書かせている、この様子を Google ビデオで、共有しないかと連絡してきたが、ビデオ視聴の方法がわからず、視聴できなかった。ただし、のちほど スカイプを使って交流をした。

3回目のアンケートでは、羽衣学園は、「優しい」を一番に挙げたが、Ahmad 校は、相手(友人・恋人)に求めるものとして、宗教に対する姿勢という回答が際立って多かった。羽衣の生徒は、この違いに驚くとともに、将来結婚した際の子供についての視点の違いを、ウェブ上に書き込んだ。掲示板への書き込みは一人一人に ID と PW を発行して、いつでもどこでも書き込めるように設定した。ただし、期間を設定してだらだらと書き込み期間が長くないようにした。



マレーシアとのスカイプの様子

マレーシアから送られた紹介写真



日本から送った紹介写真

5. 研究の成果

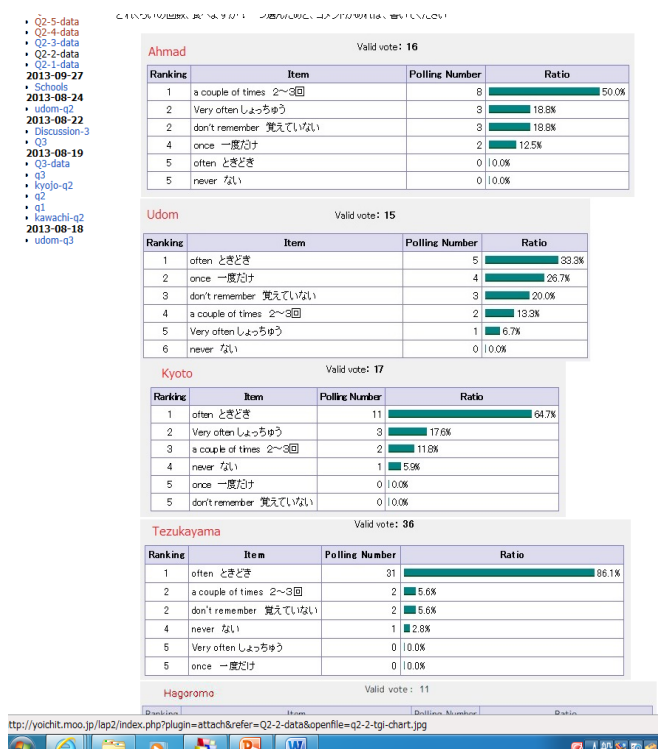
本企画の主な目的であったウェブを用いた交流の自動化による「持続的交流」、これは、すべてが満足いく結果とはならなかった。マレーシアは担当教員が実際に日本を訪問してくれ、羽衣学園でもマレーシアの文化やネット事情などの授業も実施し、盛り上がった交流となった。ただし、タイとの交流が参加3国(日3、麻1、泰2)の長期休暇の時期

の違いや日本側参加生徒同士の交流の不足、タイの教員のアクシデント(急死、退職、出産)など、予期せぬ事態の発生もあり、あまりできなかった。

ただ、2回目の伝統食に関するアンケート実施後、関西企業のバンコク物産展がバンコクのデパートで実施されるとお聞きし、そのバンコクのデパートにタイの生徒を招き、大阪たこやき職人の実習を受けるとともに、カノムクロックを実習している日本の学校と、Skype で結んだ交流は、両国参加者・関係者に大変好評であった。イベントとしても大変もりあがったようでタイの生徒も満足していた。

自分たちが発案・分析した3回目のアンケートは、生徒が生き生きと取り組み、今後のアンケート作成のヒントとなった。

先に書いた Skype による中継で実施した伝統食の「調理実習」企画も、今後の遠隔地教育のヒントとなった。



家での料理をする回数の質問結果 アンケートの一部 例 と 入力の様子

※ アンケート項目からの気づき

スナックの種類の違い 料理分担の違い ラマダンなどしきたりの違い

6. 今後の課題・展望

(1) コーディネータの育成

生徒間交流は、Skype 交流をのぞき、すべて、ウェブページで実施し、教員の負担を減らすことはできた。ただし、英語による調整、ウェブツール作成、現地訪問などの調整などコーディネータの役割はやはりなかなか減らすことはできないように思われた。ただし、ある程度軌道にのればスカイプやメールでかなり減らせることは可能だと思われる。

一方でコーディネータに求められる資質は、語学、国際感覚、IT 理解、交渉・調整能力など多岐にわたる。仕事・役割分担も含め、コーディネータ育成の環境ができることを期待したい。

(2) ウェブを用いた交流の自動化

アンケート作成ツールの開発は、実際に教育現場でアンケートの教育利用をしている担当者の意見が反映されるも

のが必要だと痛感した。

たとえば、内容によって生徒のプライバシーを保護するアンケートと、匿名でも公開してよいもの、アンケートページそのものをアクセス制限する。あるいは、現代、生徒の IT 慣れから、アンケートに動画などを掲載するツール、こういうものを開発したいが、費用の点から難しい。ただ、このようなツールがあれば、動画をどのような視点で見ているか、国際比較が可能となり、活発な交流が期待できる。

また、同一人物が、学校の回線、個人のスマホなどを使った場合、アンケート回答が重複しない設定など、考慮すべき点が多々あるが、今後の開発を待ちたい。

(3) 学校間契約の問題

タイの2校における担当教員の相次ぐアクシデントで、交流が途中で一時中断したが、これは、担当部署のスタッフの中でのみプロジェクトを実施してきたことが原因でもあった。今後の海外交流では、この点を考慮してやはりきちんと相手校への担当の確認などもしておく必要がある。

(4) 生徒の発信力

最後に、やはり、最大の課題は、生徒の発信力をさらにのばすことが必要である。自分たちで調べてまとめて発表することはある程度できて、さらに多角的な視点でものを考える力がまだまだ足りないと感じた。例えば、アンケートには回答できて、それぞれの意見を述べることはできて、相手の意見に対して深めて英語で発信することができない生徒もまだ多数あった。(英語力がある程度ある生徒も含む)

英語力とは別に、発信力の弱さが原因と考える。



マレーシアの生徒たち 交流風景



タイ バンコクでの たこやき体験

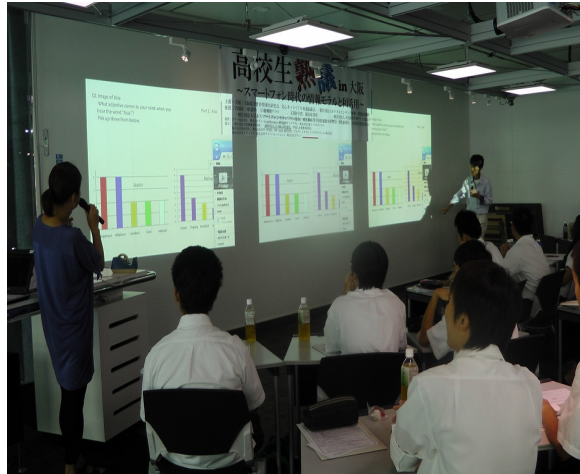


マレーシアより来日の交流の様子



7. おわりに

本交流を通じて、海外の教員が来日し、授業でプレゼンを行ったり、アンケートで、マレーシアの強い宗教観に触れるなど、多彩な交流が実現した。関西物産展と協力して実施したバンコクでのイベントは、相互の信頼を築く契機となった。2年にわたるマレーシアの学校とは、教員間の信頼関係を樹立できた。今後は生徒のイニシアティブを重視した取り組みとしたい。



私学の研究会での 発表の様子